



菅生神社

〒444-0052 岡崎市康生町六三〇一鎮座
電話（〇五六四）二三一二五〇六

菅生神社御由緒

社記によれば、第十二代景行天皇の御代（西暦一一〇年十月）日本武尊（第二の皇子）が、東国平定のため、当地を御通過になり、高岩（今の菅生川畔の満性寺あたり）で、賊を討つために矢を作らせたとき、神風が吹いて、そのうちの一矢を小川に吹き流された。（その川を吹矢川と名づける。）そこで尊は、その矢を「御霊代」と仰ぎ、伊勢の大神を祀り、この地に神社を建てられた。

「吹矢大明神」と申し上げる。当神社はこの時創建された岡崎市最古の神社です。その後、延喜年中（西暦九〇一年〜九二二年）、「吹矢大明神」を「稻前神社惣社神明宮」と申し上げ、日本武尊・宮簀姫命・乙見皇子も合わせ祀り、三河国二十六社の内に定められた。昔から、「吹矢大明神」は武門の神として尊ばれ、松平初代親氏公の祈願を初め、松平一族の崇敬が篤く、社殿造営・修復も行われた。また、三代信光公の息子、松平七朗左衛門光義の子孫代々神主として奉仕された。

聖武天皇神龜二年（西暦七二五年）御神託により、京都伏見より「稻荷大明神」をお迎えし、「吹矢大明神」の同殿に合祀する。松平清康公（家康公の祖父）岡崎城入城のとき、岡崎城内に「菅生稻荷大明神」の分霊を祀られ、これを称して「開運稻荷大明神」という。けれども、天正一九年岡崎城代田中兵部大輔吉政が城地を拡張のため神殿を取り壊されたので、菅生神社の本殿にお迎えした。四百年の後昭和五十七年十一月菅生神社境内に社が建てられ、「開運稻荷大明神」は新しい社に祀られている。

永正十四年（西暦一五一七年）七月洪水の時、額田郡宮崎郷より「天王宮」御流着あり。合祀して、「菅生天王宮」と改める。岡崎城主松平弾正左衛門信貞公、一二末社を「菅生天王宮」にお迎えして祀る。大神君家康公二五才の時、厄除け・開運の祈願、造営せられる等、崇敬が篤く、岡崎城内鎮守の守護神として、御代々の岡崎城主の祈願所となっていた。

明治元年（西暦一八六八年）「菅生神社」と名を改め、現在に至る。

主祭神（三座）

天照皇大神	吹矢大明神	稻前神社惣社神明宮	菅生神社
豊受姫命	菅生稻荷大明神	菅生稻荷社	〃
須佐之男命	菅生天王宮	菅生天王宮	〃
合殿御祭神	菅原道真公、徳川家康公		

合殿 「菅生天神社」 （菅原道真公）

第九十一代伏見天皇正応二年河内国丹南郡菅生（現在の大阪）から、満性寺の了尊上人が岡崎の菅生に菅生天神を祀る。

学問の神様で、現在は本殿に合祀されている。

合殿 「東照宮」 （徳川家康公）

第一百十代後光明天皇正保二年十二月十七日岡崎城主水野忠善が、徳川家康公を祀る。